

建築概論

(第9回)

倫理観と教育

1

今回は、倫理観をどうやって育てるのかという話をしたいと思います。

要するに、自分をどう教育するかということです。これは、将来の就職にも関わってくる問題です。

大企業は、倫理観のない人間は採用しません。なぜなら社員が不祥事を起こせば、会社全体の信用を失うからです。

ですから、個性は大事ですが、自己中心的で、自分さえよければよいというような人間は、就職面接ではじかれていくことになります。

技術者に必要な三つの倫理

- 順法性(コンプライアンス)
- 説明責任(アカウンタビリティ)
- 真実の記述(トゥルースライティング)

倫理の出発点は、常識(コモンセンス)

2

これは、前回の復習で、技術者に必要な三つの倫理を示したものです。

そして、ここに倫理の出発点は、「常識(コモンセンス)」だとあります。

倫理の出発点は常識(コモンセンス)

■常識のある人とない人の違い

- ・人の迷惑を考えるか／考えないか
- ・対人感受性が高いか／低いか
 - ・対人感受性とは「相手の立場にたって物事を考えられるかどうか」
- ・柔軟か／頑固か
- ・コミュニケーションがある／ない
 - ・「相手の気持ちを考えず、長々と話しを続けてしまう」
 - ・「相手を拒絶してしまう」
 - ・「意味のわからない会話をしてしまう」
 - ・「人の話が聞けない」

3

本日は、まず、この「常識」について考えてみましょう。

このスライドも、ネット検索で見つけてきたものですが、常識のある人とない人の違いが示されています。

これを読んでみてどうですか？ あなたは、常識のある人ですか？ それともない人ですか？

私の場合、対人感受性は結構高いと思うのですが、柔軟か頑固かと言われると、頑固ですね。また、「相手を拒絶してしまう」とか「人の話が聞けない」とかは、かなり自分にあてはまっています。

まあ、大学の教員は、意外と常識がないのかも知れませんね。(笑)

自らの倫理観を育てるためには？

- まずは学ぶ姿勢
 - 聞く力を身につける
 - 好奇心を持ち続ける
 - 未熟であることの自覚(知らないことの方が圧倒的に多い)
 - メモを取る習慣を身につける
- 尊敬できる先生を持つ
 - 人生は「であい」である

4

まあ、私の場合は、今から、倫理観を正せと言われても無理なのですが、君たちはまだ若いので、これからの学び次第できちんとした倫理観を身につけることができます。

では、どのようにして、自分の倫理観を育てて行けばよいのでしょうか？

私は、最も大事なものは、学ぶ姿勢だと思います。これは、企業の就職担当の人からよく言われるのですが、「素直な学生がほしい」と。

では、素直でない学生というのは、どういう学生か？ 俺はわかっている。俺は正しい。俺はやればできる。・・・と、変な自信を持っている学生ですね。

要するに、人から学ぼうとしないわけです。こういう学生が就職するとどうなるか。ヒラメですね。要するに上ばかり見ていると言うわけです。上司の言うことには媚びへつらい、下のものには威張り散らすわけです。

そうならないために、まずは、学ぶ姿勢を身につけるということですね。そして、それには、若い時に尊敬できる先生を持つということです。学生時代にそういう先生にであえると、本当に人生が豊かなものになります。

(株)サタケの福森副社長のことば

- イエスマンになるな
 - イエスマンとは相手に合わせる人。こういう人が集まると組織が壊れる。
- 人は変わらないし、変えられない
- コミュニケーション力とは相手を理解する力
 - 自分を伝える力(本音がどこまで言えるか)
- 平常心になる
 - いつでも平常心になれることで、自分の能力を100%発揮できる
- 「おぼえる」より「知る」
 - 「知る」はその事の本当の意味を理解する。
- 一人一理論
 - まねするのは基本のみ
- できる・できないではない。やるか・やらないかだ！
- 挑戦はうまく行かないもの
 - この考えを持つことが大切
- あせりや心配は不要
 - 元気が出ない時は、神様から休息を与えられていると思え

5

メモを取る習慣を身につけると言われたのは、東広島にある(株)サタケの福森副社長です。福森副社長は、この近畿大学工学部の卒業生なので、何回か講演を聞く機会があったのですが、その講演の中で、人間メモを取らないとすぐに忘れるので、常にメモをとることを心掛けていっているとされていました。

そして、ここに書いてあることは、その講演で福森副社長が話されたことをメモしたのですが、非常にすばらしい言葉ですね。

特に感銘を受けたのは、「人は変わらないし、変えられない」という言葉です。往々にして私たちは、自分が変わることは顧みないで、人を変えようとするのですね。「あの人の性格どうにかならんのか」とか平気で言います。では、自分の性格はどうにかできるのか？自分に問うてみてください。性格というのは、幼い頃からの学習の積み上げですから、そんなに簡単に変えられるものではありません。

そういうことがわかっている人と、わかっていない人は、大きく違います。それは、次の言葉「コミュニケーション力とは相手を理解する力」にもつながりますね。人が変わらないし、変えられないとわかれば、相手をよく観察して、相手の良い面、自分と合う面を探したり、引き出したりしようします。そういうことがコミュニケーション力なのですね。一方的に、話がうまいとか、話題が豊富とか、そういうことだけがコミュニケーション力ではないのです。要は、人間、特に自分というものをよく知っている人が、コミュニケーション力のある人なのですね。

建築家 増田友也 & 前田紀貞

- 建築とは生きることである。
- “建築論”なしでも建築はできる。だが、“建築論”なしに「本物の建築」はできない。
(増田友也)

- 建築を勉強している学生にひとつだけ言いたいことがあるとすれば、それは「**しっかりとした“人”**になってください」ということです。
 - 当然の話ですが、これは生物学的な分類からいうところの“人間”でないことはわかりますね。ここで言うところの“人”というのは、もっと精神的な意味でのことです。
 - 「**本物の男になりなさい**」「**本物の女になりなさい**」ということです。これは僕が自分の大学の生徒に初めに言うことです。「**建築の細かい技術**」はそれからでいいのです。
 - これは、医師になるには、まず**その人の「人格」が大切**であることと完璧に同じことを意味しています。

(前田則貞)

6

これは、建築家の増田友也先生と前田紀貞先生の言葉です。増田友也先生は、京都大学の森田慶一先生の研究室の後を継がれた先生で、前田先生は、増田先生の教え子ですね。

前田紀貞先生は、以前、建築学科の設計演習の講評会に招かれて、その時の特別講演で話を聞いたのですが、内容は仏教の話でした。私は、それまでは仏教徒であることも隠していたのですが、前田先生は、学生に向けてどうどうと仏教の話をされるのを見て、仏教を学生に語ることは悪いことではないのだと、考えを改めるきっかけを与えていただきました。

調べてみると、増田先生も、前田先生も、禅の教えを学ばれた方で、建築と仏教が、生きることそのものにつながっていることを伝えようと言われていたのですね。要するに、「建築論」という学問は、宗教や哲学への理解なしには語れないということです。

すなわち、倫理というのは、自己への洞察力なしには身につかないものだと思います。前田先生の「しっかりとした人」の「人」ですね。言葉を変えれば「本物」ということです。偽物ではなく本物です。要は、存在感のある人間ということです。

人間形成 亀井勝一郎著『愛の無常について』

- 考える
- 迷う
- かくあれかしという一念の発生
- 邂逅(であい)
- 自分の言葉をもつ
- 死と向き合う



電子書籍で読むことが可能

7

前田先生が言われるような、そういう存在感のある人になるには、どうすればよいか？

亀井勝一郎という文学者は、『愛の無常について』という本の中で、そういう人になっていく道として、ここに挙げているようなことを言っています。

まずは、「考える」「迷う」ということです。これは、苦悩ということです。悩むことから逃げてはいけないということです。

人間はやがて死にます。その短い人生の中で、一体何をなすべきなのか？ そういうことを昔の大学生は本気で考えたわけです。

そういう苦悩の果てに「であい」があるということです。そして、その「であい」によって本物の人間に生まれ変わっていくということです。

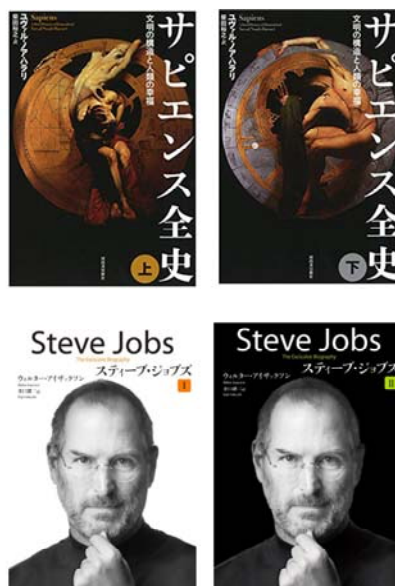
そのであいは、師と言える「人」かも知れません。あるいは一冊の「本」かも知れません。自分を生まれ変わらせるような一つの「言葉」かも知れません。

そういうであいがないと、人間としての真の成長はないということです。この本は、以下で試し読みができますので、ぜひ読んでみてください。

<https://www.kadokawa.co.jp/product/301301000678/>

本により生き方を学ぶ

- ユヴァル・ノア・ハラリ：
『サピエンス全史 上, 下』
人間というものが非常によくわかる
- ウォルター・アイザックソン：
『スティーブ・ジョブズ I, II』
なぜAppleが世界一の大企業になれたか
- 池井戸潤：『鉄の骨』『空飛ぶタイヤ』
この世の不条理がよくわかる
- 手塚治虫：『ブッダ』『火の鳥』
手塚治虫の漫画は哲学を教えている



8

そして、ここには、君たちにぜひ読んでほしい本を挙げています。

『サピエンス全史』は、すでに前回の講義でも紹介しました。目からうろこが沢山あります。高校の歴史の授業がこんなのだったら楽しかったらうなという本です。私は、この本の根底にも、仏教思想があるように思えます。

次の『スティーブ・ジョブズ I, II』は、ものづくりへの情熱ですね。スティーブ・ジョブズのデザインへのこだわりを、意匠を目指す学生にはぜひ学んでほしいと思います。ちなみに、スティーブ・ジョブズも日本を愛し、仏教にも精通した人だったわけです。この本を読むと、「見えないところに魂を込める」という日本人魂を感じます。

池井戸潤の『鉄の骨』と『空飛ぶタイヤ』は、まさに技術者倫理に関わるものです。倫理を貫くことが、現実問題、いかに大変なことかがよくわかると思います。

手塚治虫の漫画は、副読本の方にも挙げていますが、ぜひ読んでほしい漫画です。

ドラマにより生き方を学ぶ

- 『宮廷女官チャングムの誓い』
イ・ビョンファン監督のドラマはどれも生きる力を与える
- 『僕らは奇跡でできている』
人気脚本家のドラマだが背景に仏教を感じる
- 『下町ロケット』
研究開発の面白さがよくわかる



次は、テレビドラマですね。

これらは、私の好みですが、多くのことが学べるドラマです。だまされたと思って見てみてください。生きる力を与られますよ。

この他にも、最近のドラマでは、『グランメゾン東京』なんかも面白かったですね。池井戸潤の『半沢直樹』も面白いです。

映画により生き方を学ぶ

- 黒澤明監督作品
- 宮崎駿監督作品
- 是枝裕和監督作品



10

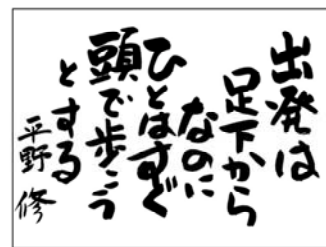
これは、ぜひ見てほしい映画ですが、副読本にも出てくる黒澤明監督の映画ですね。黒澤映画を見たことないなんて日本人としてはずかしいですよ。白黒映画が主ですが、今見てもまったく古さを感じません。

宮崎駿監督作品は、みなさんも見ていると思いますが、見たことない人はぜひ見てくださいね。

それから、私が最近注目しているのが、是枝裕和監督の作品です。少し難しいかも知れませんが、人間というものをよく見抜いている映画だなと思います。『万引き家族』も傑作ですが、『三度目の殺人』という映画もお勧めです。

宗教・哲学により生き方を学ぶ

- 仏教(手塚治虫著『ブッタ』、平野修著『生きるということ』など)
- キリスト教(遠藤周作著『沈黙』『死海のほとり』など)
- 哲学(白取春彦著『超訳ニーチェの言葉』など)



11

そして、仏教、キリスト教、哲学から学ぶということも大事ですね。

国際社会で生きるためには、自己のアイデンティティの確立が不可欠です。自己の精神文化が浅い人は、人から尊敬はされないと思います。深い精神文化を持った人は、どこの国に行っても通用するわけです。

国際感覚を身につけるには、英語能力も必要ですが、本当に必要なのは、何を大切に生きているかということなのだと思います。哲学・宗教・文学、なんでもいいと思います。人生において最も大切なものを見つけてください。

人間が生きることの意味を感じる三つの価値

ヴィクトール・フランクル(1905～1997)

- 創造価値
 - 人間が行動したり何かを作ったりすることで実現される価値。
 - 仕事をしたり、芸術作品を創作したりすることがこれに当たる。
- 体験価値
 - 人間が何かを体験することで実現される価値。
 - 芸術を鑑賞したり、自然の美しさを体験したり、あるいは人を愛したりすることでこの価値は実現される。
- 態度価値
 - 人間が運命を受け止める態度によって実現される価値である。
 - 病や貧困やその他様々な苦痛の前で活動の自由(創造価値)を奪われ、楽しみ(体験価値)が奪われたとしても、その運命を受け止める態度を決める自由が人間に残されている。

12

最後に、精神科医フランクルの言葉を紹介しておきます。

この中の創造価値、体験価値は、まさに建築を学ぶことで得られる価値です。

しかし、倫理を貫くために必要なのは、この中の態度価値と言われるものです。そこに生きることの意味を感じられる人は、真の人格者になる人だと思います。

第9回レポート課題

1. 倫理観と教育についてわかったことを書け
2. 自分が倫理観を育てるために何が実践できるかを書け
3. 副読本の「第8章」を読んだ感想について書け

13

今回は、このレポート課題にしたがって、レポートを作成してください。

以上で、第9回目の授業を終了します。